



## 「2011年国保など死亡事例調査」報告事例一覧

# 【①、国保短期証・資格証明書・無保険】

### 事例 No.①-1 ~ No.①-42(42事例)

○北海道・青森・宮城	( ①-1 ~ ①-5 )	..... 1
○群馬・埼玉・東京・神奈川	( ①-6 ~ ①-15 )	..... 2-4
○山梨・長野・三重	( ①-16 ~ ①-24 )	..... 4-6
○京都・兵庫・奈良	( ①-25 ~ ①-27 )	..... 6-7
○鳥取・岡山・高知	( ①-28 ~ ①-31 )	..... 7-8
○福岡・宮崎・沖縄	( ①-32 ~ ①-42 )	..... 9-11



全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-6	群馬	67	男	無職	国保資格書	↓ H20国保 ↓ H23 ↓ 資格者証	2011.2.20	高血圧 認知症疑い (H23年夏頃より)	2011.12.7	その他(火事)	資格者証確認されたものの支援につながらず死亡に至った事例	当院には元々、基礎疾患なくH20年まで体調不良や怪我などでたまに受診していた程度。H23.2.20夕方、悪心によりQQ車で受診。高血圧が認められたものの受診はその後なし。保険証確認できず。H23.10.5、夜間徘徊中警察に保護され顔に小さい切り傷が認められたためQQ車で受診。軽傷のため帰宅。資格者証確認された。以後受診なし。H23.12.7、地域の社会保険労務士を通じて受診の相談あり。同年、夏頃より認知症の症状がでてきており同居の弟も目が離せないため働きにも出られず金銭的に困窮し受診を控えている状態。精神科の受診予約をしたため来院時、生活相談にのって欲しいとのことであった。	介入予定していたものの、同日(H23.12.7)夜、弟が外出中に借家で火事が起き、ご本人が現場で遺体にて発見された。今回のケースは、夜間の資格者証での受診後に何らかの介入ができれば違った結果になったのではないかと悔やまれるケースであった。	
①-7	埼玉	67	男	非正規雇用(アルミ加工の日雇い)	無保険	しと2年前から寒さ、呼吸苦を感じていたが、保険証がないために受診せず市販薬で経過をみていたが改善せず。友人に付き添われて受診し、即日入院となる。精査の結果、慢性壊死性肺炎アスペルギルス症、肺気腫の診断で酸素、抗生剤加療となるも改善せず、2/9人工呼吸器管理となり2/15にお亡くなりになる。	2011.1.17	気管支喘息 (定期通院なし)	2011.2.16	病死 (肺気腫)	無保険で受診抑制による死亡事例。2011年1月17日夜間受診。3週間ほど前から寒さ、呼吸苦を感じていたが、保険証がないために受診せず市販薬で経過をみていたが改善せず。友人に付き添われて受診し、即日入院となる。精査の結果、慢性壊死性肺炎アスペルギルス症、肺気腫の診断で酸素、抗生剤加療となるも改善せず、2/9人工呼吸器管理となり2/15にお亡くなりになる。	入院翌日にMSW介入。無保険、所持金も1、2万円。12/29までアルミ加工業の日雇いで仕事をしてきたが、年明け以降具合が悪く仕事はしていなかった。無保険で、家族の支援も難しい為、受診当日に遡って市役所へ生保申請。その後、生活保護も受理され「あ〜、良かった。それだけが心配で…。保険証がなくてどうしようもないと思っていたけど、命には代えられないと思って病院にかけこんでしまっ…。もし支払いができなかったらどうしようかと思っていました」と涙ぐまれる。	入院後3週間ほどは会話も可能で、「元氣になってまた元の生活に戻りたい」と話されていたが、急変しお亡くなりになる。入院中に長男も来院され、半年に1度連絡とりあうだけの関係だったが、入院中は協力的に何度も来院される。33年前に離婚して、男手ひとつで息子を育ててきた関係が良好だったよう。死亡後は長男や、本人の兄弟も来院され、その後の葬祭等は心配なし。	生保の対応。申請から決定まで、特別問題なし。
①-8	埼玉	60	男	無職	国保短期保険証	国保↓ 滞納↓ 短期	2011.1.19	2型糖尿病、 大腸癌、 腹膜播種	2011.7.1	病死 (誤嚥性肺炎)	医療費支払い困難で定期受診中断。腸閉塞入院→大腸癌診断→手術後再発、全身状態悪化、入退院繰り返し死亡された事例。弟(三男)とグラフィックデザインの会社を起業し本人が代表を務めてきた。しかし夢が大きく(弟は『妄想癖』と)、借金を色々作ったため15年前退任させられた。その後水商売や会社の起業などいろいろな商売をしてきたがやはり借金をかさね、都度弟が支援し整理してきた。3年前に、妻と諍論別れて家をでて自身でアルバイトなどしていたのだが、金銭もつき受診も中断。年明け弟が訪問し様子を見に行ったらあまりにも調子が悪そうだったので3万円を渡し受診に行くよう促したとのこと。	07年~10年DM外来を不定期受診(中断がち)。10年4月~中断していたが、11年1月腹痛で受診し腸閉塞にて入院、本人・家族との調整を行い、入院時から生保申請。大腸癌診断。2月切除術、3月自宅退院。4月転倒、体動困難にて救急搬送。呼吸状態悪化し、一時人工呼吸器管理。大腿骨頸部骨折、多発褥瘡。一時状態よくなるも、誤嚥性肺炎を繰り返し、病院で亡くなる。	生保受給でき、最後は病院でお亡くなりになる。	
①-9	埼玉	59	男	無職	無保険	国保↓ 無保険↓ 生保	2011.7.22	C型肝炎	2011.10.15	病死 (胆道癌)	元々C型肝炎で法人内診療所通院していたが、3年前より経済的な事を理由に、自己中断をしていた。腹部の痛みが強くなり、2011年7月22日に当院受診。胆道系癌が疑われ、即日入院を勧められたが、経済的困難な状況から無保険状態だったが、本人・家族共に入院拒否。その日に生活保護に申請し向いた上で、翌日再受診し、入院となった。	MSWが保険証の事実を確認したのは、入院当日。面談し、経済的困窮しており生保申請した事を確認。検査の結果、胆道癌、十二指腸・副腎転移。リンパ節転移、胸水貯溜と分かった。化学療法も実施したが、回復難しく、緩和治療の方向へ。本人の自宅に戻りたいという気持ちも強く、自宅介護を見据えて調整していった。元々妻と2人暮らし。73000円家賃の賃貸マンションに住んでいた。生保からは生保基準内の住居を探し転居を求められていたが、ご本人には残された時間に限りがあった為、生保に説明の上、現状の住宅での在宅生活に戻られた。	2011年9月に訪問看護導入し自宅退院。その後10月に急変し再入院し亡くなった。	

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-10	埼玉	54	男	無職	無保険	詳細不明	2011.2.26	結核	2011.3.6	病死(結核)	無保険にて受診せず、病状悪化していたと思われる事例。2/26救急搬送、初診。「10日前から何も食べていない。呼吸苦。痰がらみ。」で本人が救急要請したとのこと。ガフキー3+で結核が強く疑われ、結核入院対応できる病院へ転送。詳細は不明だが、●●市の女性宅に住んでいたとのこと。同居の女性によると、「家族でもなんでもない。家族は九州にいるらしいが詳細不明。転がり込まれて困っていた。何も支援できない。」とのことだった。	2/26救急搬送された時の関りのみ。即日結核疑いにて他院転送。無保険・無収入、手持ち1700円とのことで週明けに福祉課へ生保申請通報。転送先の病院SWIにも知り得た情報を申し送りました。	転院先で状態悪化され3/6死亡。	生保決定となった。
①-11	東京	59	男	その他(警備関係詳細不明)	国保短期保険証	↓国保短期証(5/3/生活保護)	2011.3.25	糖尿病、高血圧	2011.8.15	病死(糖尿病全身状態悪化)	独居。母親と長男は東北在住、埼玉にいる姉が今回キーパーソンとなる。MSWが「6ヶ月の短期証、数日後に期限切れ」ということに気づき姉に連絡。至急保険証の更新手続きをおこなうが保険料未納あり再度短期証となる。病状悪化で経済状況の把握に時間がかかり福祉事務所に姉が相談した4/22から生保開始、その間の3割負担分は家族が支払うことになる。	20年前より糖尿病・高血圧で他院に通院していたが、2年前に閉鎖したため中断。3/9頃から具合が悪く下肢に力が入らなくなり、自宅で寝込んでいるため入院を勧めたが拒否、飲み物を買ってきてほしいと頼まれたためボカリスエットのみ購入し帰宅した。入院当日は大家さんが救急車を要請、当院に搬送され即入院となる。当院は初診、関係機関への通院歴なし	来院後、重度の脱水及びコントロール不良の糖尿病を有しており傾眠傾向。経過中に敗血症性ショック、喀痰排出困難による窒息などで2回挿管、人口呼吸器管理を必要とした。その後、気管切開、胸腔穿刺、重度の褥瘡治療等行なったが、8月頃より呼吸苦が強くなり全身状態が徐々に悪化し、8/15に死亡確認となった。	経済的に困窮していった経過は全くわからないが、風呂なし・和式トイレのアパート住まいだったことを考えると低収入だったと想像する。
①-12	東京	76	男	年金受給者	無保険	詳細不明	2011.10.27	不詳	2011.10.28	病死(肺結核)	2011.11.27 23時30分 救急搬送にて当院初診。トイレで動けなくなったところをタクシー運転手が見つけ救急要請。食事はコンビニの要らないものをもらって食べていたが、2,3日は何も食べていなかった。胸部レントゲンで肺結核疑いにて、転送。転送先の病院にて翌日死亡。警察より問い合わせあり。	救急車で搬送され、初診であった。他院に転送したため、背景等詳細については不明であるが、経済的には困難であったと思われる。		
①-13	東京	66	男	自営業	国保資格書	減額国民健康保険認定証発行されず。滞納中で保険料滞納中	2011.3.28	肺原発多形癌(肺がん)	2011.10.3	病死(肺癌)	6月に手術、7月再発。本人と妻と娘の3人家族。建築関係の自営業を営んでいたが、社会情勢のあおりを受けたため。介入時は無職。妻の年金とパート収入と非常勤の娘の収入で生活。本人は無年金。自宅のローンと多額の負債を抱えており、国民健康保険料・介護保険料等は滞納。	2011年8月、外来フォロー中に妻から医療費の相談を受ける。その時に6月、7月の3回分の入院費が未収(60万)であること判明。経済状況を把握し、市役所の国保課と生活福祉課、社会福祉協議会に相談・交渉するが手段なし。委任払い未実施の自治体。(生活保護申請は、家族が拒否)	疼痛コントロールで入院し、在宅調整(往診・訪問看護・ベッド)を行い退院するが、進行で再入院となり死亡。医療費：親族からお金を借り2年分の滞納保険料を納付し、過去に遡り減額認定証を発行され当院の医療費を支払う。	保険料納付後、減額認定証を過去に遡り発行。(～11/7/31、11/8/1～1年間)
①-14	神奈川県	66	男	非正規雇用	国保資格書	活資格証明書↓短期証↓生	2011.3.11	胃癌	2011.4.10	病死(胃癌)	会社の寮に住み、食堂のまかないの仕事をしていた。胃の不調があったが、市販薬でやりすごしていた。資格証明書が発行されていたため保険年金課で1万円を支払い、6ヶ月間の短期証を発行してもらい、ようやく受診につながる。	外来受診し、胃カメラ施行。胃癌の診断で入院。入院後、生活保護申請。	入院後、手術するがその後死亡。3/29～入院、4/10死亡	本人の給与月10万円位 預金なし

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-15	神奈川	67	男	非正規雇用	無保険	国保↓無保険	2011.4.11	S状結腸癌、多発肝転移	2011.11.24	病死(S状結腸癌)	ふらつき、食欲不振、左側腹部痛にて2011年4月11日に民生委員と法人内のクリニックを受診。S状結腸癌ターミナルとの診断(予後3カ月位)で2011年4月11日～6月13日まで入院となった。入院日にSWと本人面接となる。1年位前から体調悪く、仕事週1回ぐらいしかできず、保険も1年位前からなくなった。年金もない。自宅は社員寮、解雇となり出ていかななくてはならない状況。連絡とっている親族なし。本人より、生保申請すすめてもらいたいとの希望あり。	経済状況的に生保該当と思われる、本人の希望もあり、入院同日、役所へ生保申請の一方を入れる。4月28日生保ケースワーカーと本人面接、5月11日に担当ケースワーカーと本人面接、病状調査となる。5月13日生保決定、5月26日介護保険申請、寮は出なくてはいけないため、本人と相談し、ケア付住宅の入所相談をしていった。	6月13日に退院、ケア付住宅への入所、退院後外来通院をしていたが、病状的に外来難しくなり、6月27日から往診対応となる。本人、ケア付住宅静かで好きな物食べられ、タバコも吸える。入院せずここで過したいとの思いだった。11月24日ケア付住宅職員が呼吸停止している所発見、往診医がケア付住宅訪問し、死亡確認を行った。	
①-16	山梨	51	男	無職	無資格書	国保資格書	2011.6.29	アルコール依存症、肝硬変	2011.12.24	病死(急性心不全)	1人暮らし。温泉旅館をしている両親の1人息子として生まれる。家業を継ぐために他県で調理師の修行。20代で結婚し2児をもうけるが、アルコール多飲が原因で離婚。その後、両親が相次いで死亡し旅館が廃業となった。昨年の春ごろ電気も水道もない自宅で衰弱していたのを民生委員が発見。救急車で他の急性期病院へ運ばれた。保険がないため自費で入院。当院へは6月姉が付き添って外来受診。アルコール依存症と診断され専門病院を紹介された。精神科入院を本人が拒否し、在宅で生活。姉が水や食料品、ろうそくを差し入れをして寝泊りをしていた。12月23日姉と一緒に買出しに行き24日自宅で死亡している本人を姉が発見した。検死の結果、急性心不全であった。	保険証がなく(国保資格証明書が発行されていた)、医療費も支払いが出来ないという事情で地域包括支援センター保健師が紹介してきた。付き添ってきた姉と面接。ライフラインも止められ、持病のアルコール性肝硬変の治療中断していることなどから、生活保護申請を紹介した。行政に働きかけた。	親が残した旅館、ブドウ畑の資産があり、本人が多額の現金保有があると説明したことから生活保護申請には至らなかった。12月24日 自宅で孤独死	担当民生委員、行政保健師などが訪問し食料品の差し入れなどの援助をしてきた。しかし、本人が生活保護申請の意思がないため、進めることは出来なかった。
①-17	山梨	56	女	自営業	国保短期保険証		2011.3.3	平成11年脳梗塞、高血圧、肺炎、心拡大	2011.3.11	病死(心不全)	母が亡くなってから、食事を作らなくなり、昨年6月から食べられなくなった。むくみもひどくなり、3月3日に受診。入院をすすめられたが、経済的問題や商売が気になり、連日点滴治療に通っている。3月5日無料低額診療事業の活用を前提に介入依頼。経過を聞くと父の存在は知らずして育ち、母と2人で暮らしてきた。定時制高校卒業後、縫製の仕事・製造業を経て30年以上前から今の仕事をし、店を任されるようになった。しかし、母が生前当時から収入は十分ではなく、母の月8万円ほどの年金をあてにしないと生活は出来なかった。現在は収入も手元に残るのは3万ほどで、アパート代は2年以上滞納。店の家賃も数ヶ月滞納はじめ生活保護申請には消極的であったが、生活保護申請を前提に、無料低額診療事業の活用を考えたい。3月11日生活保護申請に行く予定であったが、本人は市役所に現れず、病院に戻ると自宅で亡くなっていたと連絡が入る。		生活保護申請予定日に自宅で亡くなっていた。	
①-18	山梨	58	男	非正規雇用	無保険	無保険↓生活保護	2011.7.13	肝細胞癌	2011.7.29	病死(肝細胞癌)	以前5、6年ホームレスだった。廃品回収業者の社長に拾われて、廃屋のような家に3人ほどで住んでいた。廃品回収で月3万くらいの収入。黄疸・倦怠感が出て7月6日近医を受診。当院を紹介され7月13日受診。6日、13日ともに自費で社長が支払った。翌日当院入院となり、初診の時点で末期肝細胞癌で2週間足らずで亡くなられた。	住民票は職権削除されており、入院日に生活保護申請した。10年前に胆石で入院した既往はあったが、肝細胞癌に関しては治療歴はない。半年ほど前から体調の異常は感じていたようだが、かなり悪化してからの受診となってしまった。	結婚歴なし。今まで家族に迷惑をかけたこと、本人は家族への連絡は消極的だったが、長兄が死後来院してくれ、実家のお墓に入れてくれるとのこと引き取って行かれた。死後生活保護決定。	入院時点で社長から借りた現金が7万あり、生保申請日を渋られた。7万は社長に返金し入院日で申請を受付させた。

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-19	山梨	61	男	無職	国保短期保険証	国保↓短期保険証	2010.1.12	肝硬変による腹水貯留、食道静脈瘤	2011.1.11	病死(肝硬変)	初診時腹水著明、他院で12/15日から胃潰瘍の治療をしていたが、腹水を抜くことはできないと言われ当院受診した。息苦しくて食事も取れない早く抜いてくれと。入院をすすめるが、なんとしても拒否、外来で腹水穿刺・排液施行した。必ず受診することを確認して帰宅。2/16入院するも吐血あり、食道静脈瘤破裂にてA病院転院しデンバーシャント治療。その後外来通院で内服治療続けるが中断がちであった。11/18日受診後中断。1/11日他院から救急車で運ばれたと問い合わせあり。	初診時からMSWが受診援助に関わっていた。89歳の父との2人暮らしで年金生活(父20万、本人6万)父親は身の回りのことができるという。地域包括支援センターにも情報提供し、見守りを願った。保険料の滞納が60~70万あり、分割で1回5万払っている。その後3万に減らしてもらった。医療費が負担になるので6月身体障害者手帳を検討し、9月に申請11月に肝臓1級の手帳が交付された。同時に重度障害者医療費助成認定証も発行され、窓口無料となった。中断時には外来NSやMSWから電話で促しをしていた。無低診事業を紹介するも希望せず、12月の予約をキャンセルし電話も不在であった。	1/11日、B病院から地域医療連携室に問い合わせがあり、救急車で運ばれたとのことだった。B病院のSWIに問い合わせたところ、9日に吐血し救急搬送されたが、肝性昏睡で意識がなく、10日に急変し、11日死亡したとのことだった。本人は人に頼ることをよしとせず、無低診の利用を紹介したが乗り気ではなかった。気になっていた方なので訪問しなかったことが悔やまれる。	2人世帯の生活状況のフォローを地域包括支援センター依頼
①-20	山梨	62	男	無職	無保険	無保険↓短期保険証↓生活保護受給	2010.10.21	下顎癌	2011.1.10	病死(下顎癌)	17年前に母親が亡くなってから独居。結婚歴なく、独身。実姉が県外にいるが、連絡は取り合っていない状況。職業も製造業・パチンコ屋など転々としていた。最近では桃の箱詰めなどアルバイトで生計を立てていた。築100年の持ち家に住んでおり、ゴミ屋敷化していた。数年前から無保険状態。	H22.10.20生活保護課より連絡あり。本人から貯金が15万ほどあるが、現在仕事も収入もないため生活保護申請したいと生保課の窓口に来所したが、貯金があるならすぐの生保は難しいと判断せざるを得ない、しかし、目が異様に腫れているため眼科を受診を早急にさせてもらいたいと電話連絡あり。10.21当院の眼科を受診。受診後当院では対応困難にて他院の耳鼻科の予約と他院のMSWIにも情報伝える。後日1ヶ月の短期保険証をとりあえず作ってくれた。	他院に紹介後、本人が受診していないとMSWより連絡もらい、自宅に訪問するが不在。34回目まで本人つまり、受診をしてもらった。実は貯金はすでない状況であったと分かり、生活保護課に同行し、生活保護申請をする。その間に他院で検査等施行し、下顎癌と診断されたよう。方針決定する間に急変し、H22.12.7友人が病院に連れて行ってくれ、入院。すでに手遅れの状態。他院では治療することはなくターミナルであると当院に連絡入り療養病棟にH22.12.8に転院。生保課より実姉にも連絡つき、県外より駆けつけて下さり、H23.1.10に当院にて死亡退院された。	生活保護申請相談を2回(1度目は本人だけで、2度目はMSWが同行)しているが、最初の時点できちんと調査や聞き取りなどできていなかった。
①-21	長野	63	男	非正規雇用	無保険	入院時国保期限切れ国保↓再発行に	2010.12.19	DM、アメルバ赤痢	2011.1.7	病死(アメルバ赤痢)	63歳男性。警備会社派遣で寮での共同生活。1か月ほど前から下痢があり続いていた。数ヶ月前に長野に来る前は、東京の方にいたよう。保険証の期限切れや金銭的な事から受診は全くしてなかった。両親は亡くなっており、兄弟とは、40年前ほど前に親から縁切りがあって、家を出てから連絡を取っていない状況。	12月19日救急車で来院。当院初診。東京の病院でDM指摘された経過があるようだが、未治療状態。入院日即日緊急オペとなった。保険証は期限切れの状態であった。会社の方の力も借り、再発行をたが、支払能力はない状況との判断もあり、日曜入院だったため、日曜日付けで生活保護申請となった。ICU管理され、その後一般病棟に出る。状態急変から3日程で亡くなってしまった。	亡くなる当日、市役所生保課が動き兄と連絡が取れたと。亡くなった場合は、兄が引き取るという形となった。入院日付けで生活保護申請となったが、決定前に亡くなったため、40年近く連絡をとっていなかった兄弟にこ遺体の引き取りから医療費の支払いまで負担を掛ける形となってしまった。本人は、ご逝去される前に兄弟に会う事が出来てよかったとは思われるが…。医療費は約60万円程。生保が前提だったので限度額申請せずになっていた。	保護申請を認めながら、死亡を理由に兄弟へ負担をと手を引く形の対応となった。
①-22	三重	29	男	無職	無保険	養(無)ほ(無)保(無)険(無)↓(無)家(無)族(無)の(無)扶(無)け	2011.2.2	糖尿病、高血圧症	2011.2.3	病死(糖尿病性ケトアシドーシス)	ブラジル国籍。父と妹が先に来日しており、本人は2010年12月に来日した。本人は日本語を話せないが妹は可能。妹が通訳となる。2/2夜間、体調不良にて受診するが無保険。入院適応だが満床にて叶わず翌日の再受診予定となった。しかし2/3状態悪化にて救急車で来院。緊急入院になるが同日死亡。	2/2夜間診時に担当医師より保険証の件で市役所へ相談に行くよう勧めた。	市役所から妹の扶養家族として協会けんぽへ加入するよう勧められて、そのように手続きが妹によりされた。	

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-23	三重	62	男	非正規雇用	国保短期保険証	不明(短期証5H23.9.30)	2011.4.4	肝癌	2011.4.20	病死(肝癌)	4/4他院からの紹介で当院へ精査入院。肝癌の診断。本人からは会社社長から面倒をみてもらえる旨の話があったが、それは叶わず。生保申請後に判明した家族に連絡取れ、来院される。(借金問題があり、消息不明になっていたこと)4/20本人死亡。	4/5SW介入。国保料未納あるも、限度証発行手続きを行う。本人から情報聞き取り進まず対応苦慮するも4/15念のため生保相談を福祉事務所へ医事課より行う。4/19、本人宅を訪問にて預金、現金ないことを確認、生保申請する。	福祉事務所が探し出した家族により、医療費は支払われた。	
①-24	三重	62	男	非正規雇用(アルバイト)	無保険	(H保険3.12.31まで)	2011.10.15	肝不全	2011.11.1	病死(肝不全)	10/15、一旦入院となるも本人の強硬な退院意思により翌日退院。10/30体調不良により緊急入院なるも翌日死去。本人は頑なに医療を受けることを拒否していた。(理由不明)心配した家族の関与もあったが、そのほとんどを拒否したまま亡くなった。(国保料滞納により資産差押えにされていた様子)	1回目の入院時は医事課職員のみでの対応であった。兄が元生保ケースワーカーであることから、その後の対応を任せたとのこと。SWからは本人が受診していた医療機関へ経過報告し、情報共有を行った。2回目の入院でSW介入、生保も検討したが要件該当せず、本人は拒否していたものの国保加入の手續援助を行った。	国保加入により3割負担での対応となったが、生前、本人がその加入を頑なに拒否していたことを重視した兄が本人の意向に沿いたいとのこと、兄が10割負担の額を支払った。	
①-25	京都	51	男	自営業	国保短期保険証	H国保3.5.31)	2011.3.15	重症急性膵炎	2011.3.27	病死(重症急性膵炎)	自営業を営みながら一家を支えていたが、他院に膵炎で入院時、医師から「癌の疑い」を指摘され精神的に落ち込み、不安をお酒で解消するようになった。仕事にも出られず、経済的に困窮し「入院になるとお金がかかるから」と受診を拒んでいた。その時の入院費も未払いであった。最終的に自宅で動けなくなり、食事も入らず、痛みを我慢できなくなり当院を受診。家族は妻と子3人と同居。発達障害の子あり。子も非正規雇用で生活自立できず。ガス代払えず止められていた。妻のパート収入で世帯の生活を支えていた。	当院へは初診。ソーシャルワーカーが援助に入り、入院時から無料低額診療事業を適用。	入院治療するが、全身状態悪化し死亡に至った。	国保料滞納が十数万円あったため、負担限度額認定証(Cランク)の発行は困難だが、県の貸付制度の利用を検討すると市の担当者より連絡がある。標準負担額減額認定証については発行してもらえたため、無料低額診療事業との併用で、負担額を抑えることができた。
①-26	兵庫	60	男	非正規雇用	無保険	無保険↓国保↓生保	2011.2.22	胆管癌、肝臓転移	2011.3.16	病死(胆管癌肝臓転移)	独居で生活。近くに娘・孫が住んでいる。現在はアルバイトの収入、貯金を切り崩して生活している。自宅は父の持ち家であるため、家賃はかからない。土地は毎月支払いが必要であるが、収入が少なく支払いが困難なため、数ヶ月分滞納している。無保険であり、医療費の支払いが心配で医療機関へ受診出来なかった。しかし、1カ月前から腹部の張り、腹痛、食欲低下あり。1週間前からは、心窩部痛のため、ほとんど食事がとれていない。心窩部痛の増強があり、2011年2月22日夜間に当院へ救急搬送される。	今までに当院の受診歴なし。	2011年2月23日外来受診に来られた際に、ご本人・娘様と面談する。現在、無保険であるため、国民健康保険加入、無料低額診療を申請。2月24日入院と同時に生活保護申請する。検査の結果、胆管癌、肝臓転移がわかる。初診から23日後の3月16日にお亡くなりになる。	生活保護行政と相談

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-27	奈良	51	女	その他(内職)	無保険	↓無保険 ↓短期保険証 (S H 2 2 . 7 . 3 1)	2011.8.3	胃癌	2011.8.7	病死 (胃癌)	約5年前から時々心窩部痛を訴え、近医を不定期に受診していた。2ヶ月前から咳が出始め、食思不良(体重-6kg)となる。市販薬で様子を見ていたが、全身倦怠感も強くなり救急搬送されてくる。肺高血圧症と胃癌が疑われた。20代前半に結婚するが、約13年前に家を出て、住民票は母親の住所地においたまま、内縁の夫と生活していた。収入は内職代約5万円と内縁の夫の給料約25万円。内縁の夫も国保。毎月10万円弱の借金返済のため生活が苦しく、年金保険料と国保料を滞納。分納相談もしていたが、平成22年8月から無保険状態となっていた。	病棟より無保険との連絡があり、内縁の夫と面談。保険証の発行を求めて国保課へ相談に行くよう話しをする。内縁の夫も国保料を滞納しており国保課へ行くことに消極的であったが、何度か話をした末に相談に行かれ、1,000円を支払い、1ヶ月の短期保険証が発行された。疎遠だった母親とも連絡が取れ、一部負担金減免の申請を行う。	病状が落ち着けば、借金の整理や今後の生活について相談しよう話をしていた矢先、8月7日の深夜に急変され亡くなる。解剖の結果、主要所見はスクラズ型胃癌と腹腔内出血であった。1ヶ月後、一部負担金の全額免除決定通知が届く。	事前に国保課長に連絡した上で、一部負担金減免申請に行ってもらったが、対応した職員は一部負担金減免の話には一切触れず、母親は高額療養費貸付制度の説明をされたのみ。国保課長に確認すると、「窓口対応としては、医療費の相談があった場合、すぐに減免の話をするのはではなく、まずは使える制度として限度額適用証や貸付の説明をするため、それに従って話をさせてもらった。」と。申請は受け付けるとの確認をとり、再度、母親が申請。
①-28	鳥取	59	男	無職	無職	納↓短期国保↓B市国保↓保険料滞		糖尿病	2011.7.6	病死 (糖尿病 全身状態悪化)	もともと糖尿病にて当院内科外来に通院していた。通院当初は母親と二人暮らしで、仕事(職種は職人、医療保険は国保)もしていたため、経済的問題は確認されず。しかしその後8ヶ月間、受診中断となり、病状が悪化。自ら救急車を呼び当院へ救急搬送された。	即日入院となり、その数日後に入院病棟からの紹介を受けMSWが介入する。面接において、①事情があり母親と別居し単身で生活していること。②病状が思わしくなく離職していたこと。③母親のわずかな仕送り、兄弟からの差し入れで何とか生活していたこと。④医療保険はわずかな保険料を納め国保短期証を小刻みに更新していた。等々が確認され、介入日に生保申請をおこなった。後にこれが決定となったが、入院日～生活保護適応日までにタイムラグが生じたため、この期間については無料低額診療を申請。これも決定になり、結果的に患者の入院費自己負担分はなくなり、経済的問題は解消された。	長期間インスリンが枯渇していたことから病状は深刻であった。また検査により転移性の脳腫瘍がみつかり、内部臓器に原発の癌があることも疑われた。これらの治療および精査が続けられたが、その甲斐なく入院約2週間後に永眠される。主治医からは「死因は長期間受診が中断し、インスリンが枯渇したことが大きい。治療が継続していれば結果は変わっていたと思われる」とのコメントも聞かれた。	
①-29	岡山	50	男	無職	無保険	無保険↓国保↓生保	2011.4.9	高血圧、 B型肝炎	2011.6.8	病死 (肝癌多発転移)	15年前にB型肝炎と診断され、2～3年は通院していたが、「もう大丈夫だろう」と言われ、通院中断。その後10年は無保険のため受診していなかった。H22. 1より高血圧のため無保険のまま薬代のみで近医へ通院していた。H23.2食欲不振、腹痛等自覚症状が出たため近医受診。H23. 4当院紹介され入院。肝癌が多発転移している状態であった。	入院時無保険。H元年仕事が変わったため国保へ手続きに行った際、前の番号を自分で調べなさいと言われケンカになった以後保険なし。H16～17頃、仕事を求めて弟のいる●●市へ転居。弟の家族と共に生活していた。●●福祉事務所へ相談。単身で生保申請はできない。住民票が県外へあったため、県外市役所へ問い合わせ、郵送での転出。	●●市へ住民票移動し、入院日付で国保加入。限度額認定の申請を行う。H23. 4/22アパートを借りて単身世帯として生保申請。4/22付けで生保決定。契約したアパートへ帰ることなく6/8死亡。	



全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-30	高知	60	男	無職	無保険	15年前頃まで短期証、その後無保険	2011.8.17	頸部リンパ節腫脹	2011.11.29	病死 (頸部リンパ節腫脹)	<p>病状: 6月中旬ごろから両脇下(リンパ?)が腫れて、背中から首にかけて寝れないほどの痛みあり。咳も同じころから続いている。食欲もなく10キロぐらい痩せた。</p> <p>食事は一日1食から2食。ビールは350ミリを3缶と焼酎2杯程度毎日。30歳~40歳ごろまで居酒屋をやっていたがその時は毎日1升ぐらい飲んでた。</p> <p>保険: 無保険は15年前頃から払えるところは短期保険証だった。今は住所がない状態なので何も来ない。</p> <p>◆職歴: 17年前頃から無職状態で、アルバイトでダンプの運転などをやっていた。</p> <p>生計: 6~7年前頃まではアルバイトで月20万ぐらいになっていたが4~5年前頃からは収入が無くなり内縁の女性に世話になっている。女性の家が農業でその手伝いで6~7万円もらっていたが具合が悪くなり働けない状態。女性からはここで悪くならんと言われており、生活保護の相談に行くも住所がないために受け付けてもらえていない。</p> <p>借金: サラ金に10年以上前に200万円ほどあるが返せていないし、住所がないので何も言ってきていない。</p> <p>預金: 無・ 生命保険: 無・ 自家用車: 無・</p>	<p>対応: 無料低額10割減免</p> <p>対策: 去年の6月に生保の申請に一度行くもその時に住所がないと申請できないと言われ家を探しても保証人の問題とお金の問題でそのままになっていたが、今回は体の具合が悪く再度申請に行くも同じ理由から受け付けてもらえず診療所を紹介された。家の問題がネックになっており、うろこの会、生活と健康を守る会を紹介することとした。なお、入院が必要な状況であれば入院先からの申請を直ちに行うよううにしたい。</p> <p>◆無職だが時々パート、内縁生活、無保険</p>		
①-31	高知	64	男	無職	国保短期保険証	建設料国が高かつ短期が仕事証がなくなり国保へ。	2011.7.15	肝臓癌	2011.8.18	病死 (肝臓癌)	<p>情報源 ラジオ</p> <p>病状: 脊椎狭窄症、およびヘルニアで●●整形外科に通院中。最近類のできものが悪性かもしれないとのこと検査するが結果は良性で心配ないとのこと。10日前ぐらいから陰囊?が1.5倍ぐらいに両方が大きくなって心配になっている。</p> <p>これらの病気が内科的な病気から来ているのではと心配で仕方がないが、現金の持ち合わせがなく我慢している状態とのこと。</p> <p>腰の病気の関係は●●整形の先生に相談しながら治療を継続することをアドバイス。その他のことについては当院診察にて相談することをお勧めしました。</p> <p>保険: 1年半前から短期保険証が続いている。毎月2330円の保険料を払っている。</p> <p>国保はH19年10月に建築関係の営業の仕事を退職してから国保に入っていたが保険料が高く払えなくなり短期保険証になってきた。</p> <p>◆特定健診(6月に済み)</p> <p>職歴: 通信高校卒業後、期間工の仕事を転々しながら、その後不動産、建築関係の仕事などをしてきた。4年前に退職してから日雇い仕事でやりくりしてきたがここ3か月仕事がなく困窮状態。</p> <p>生計: 年金6万円と日雇いのお金があるときはプラスになるが、借金の返済が4万円あり、東京の姉に援助してもらいながらやりくりしている。</p> <p>借金: 残金80万円ぐらい(毎月4万円返済)</p> <p>預金: 無・ 生命保険: 無・ 自家用車: あり(トヨタカーナH9年版)</p> <p>◆無職、年金生活(60400円)、一人暮らし</p>	<p>対応: 無料低額10割減免</p> <p>対策: 借金の件は法テラス高知を紹介。本人は福祉はまだ選択する意思がない様子だったが、今後のことも含めて考えることをアドバイス。</p>		

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-32	福岡	58	男	自営業	無保険	↓社会保険 ↓生活保護 ↓無保険 ↓国保	2010.7.28	肺がん、脳腫瘍	2011.2.20	病死(肺癌) *転移性脳腫瘍	自動車関連の会社を退職後、50代より自動車の板金塗装の自営業をしている58歳の単身者。会社の社保を脱退後、国保に加入しておらず、自営業(従業員なし)で生計を立てていた。本人曰く、「貯金もないが、借金もない」という経営状況。数日前からの症状を自覚していたが無保険のため受診せず、7月28日呂律不良を主訴に来院、脳腫瘍の疑いで入院となった。原発性肺がんの脳転移と診断され、他院でのサイバーナイフ治療、化学療法をうけるも、翌年2月20日死亡した。	2011年7月28日タクシーにて来院し入院。入院直後より、本人からMSWへ医療費の相談があった。所持金があるため生活保護申請は希望せず、ひとまず国保を作成するも、他院でのサイバーナイフ治療が必要になったため、生活保護の申請を行うこととなった。	入院中に生活保護が決定、肺がんの化学療法なども行ったが、2012年2月20日死亡となった。	
①-33	福岡	61	男	無職	国保資格書	↓無保険 ↓生活保護(資格書)	2011.5.29	急性心筋梗塞	2011.5.29	病死(急性心筋梗塞)	知人宅(内妻)より心肺停止状態で救急搬入。同日5時間後に死亡。保険は資格者書。数年前より妻子のいる家をでて所在が分からなくなっていた(妻は、関西にいるものと思っていたとのこと)。時どき連絡があったり、ひょっこり帰ってきたりはしていたが、妻のみ単身で生活保護を受給(市外)となっていた。	死亡後(休日だったため、週明けの対応)搬入地である●●市に相談するも、妻がいること、妻が市外で生活保護受給中であれば当該福祉事務所へ相談をとの指導。妻の担当CWに相談するも居住実態がないため対応できない、搬入先の福祉事務所へと言われた。双方へ相談した旨を説明し、福祉事務所同士で協議をしてほしいと依頼する。また、妻とも面談を行い、経済的負担が困難なことを確認する。	医療費については、妻宅に居住実態がないため、搬入地である●●市が職権で対応。葬祭費については妻が引きとるということで妻の居住地の保護課で妻が申請を行うこととなった。	
①-34	福岡	66	男	非正規雇用(日雇い)	無保険	無保険 ↓生活保護	2011.2.2	食道癌	2011.2.6	病死(食道癌全身転移)	労働下宿より救急搬入。2か月前より、食事も取れず、全身倦怠感、著しいい痩で、動けなくなっていた。診断は食道癌(進行癌)で、全身転移。保険はなかった。23年前に妻子と別れて、単身で、●●市で働いていた。戸籍も抹消(死亡扱い)されており、保険も住民票抹消の為、作れなかったという本人からの話であった。搬入後、すぐに、生活保護申請。入院5日間で死亡。	入院後、生活保護申請相談し、代筆にて、生保申請。死亡後に、前日に本人から教えてもらっていた妻の連絡先に、電話をかけた。死亡を伝えるが、関わりを拒否される。生活保護にて、葬祭は行われた。	入院時に、すでに手遅れ状態(全身転移)で余命は1か月持たないかもと、主治医からは言われていたが、わずか、5日間で亡くなった。死亡後に、妻とも連絡するが、何十年も音信不通で、すでに失踪として死亡届を出していた。本人も、あまりの体調の悪さに病院にかかる為、保険を作ろうとしたらしいが、妻に連絡をしてもらいたくない。その時に、戸籍も抹消されていることを知り、保険証を作れず、受診も出来なかった。妻子は自分達は「捨てられた。何もしてもらっていないから、関わる義務もない」生活保護担当者には、その話をして、「医療費」「葬祭費」を生活保護で対応してもらった。	
①-35	福岡	63	女	無職	無保険	明住民票地不明のため詳細不	2011.11.2	卵巣がん	2011.11.29	病死(卵巣癌)	内縁関係の夫と二人暮らし。自宅で動けなくなり救急搬送、卵巣がんとの診断がついた。夫の日雇い収入のみでの生活で、経済的な問題を考えたか本人はこれまで受診をすすめても拒否していた。住民票がどこにあるのかわからなかったため(認知症のためか本人から聞けず)保険加入も難しく、また夫の収入も生活保護基準以下だったため生活保護を申請。	入院後、保険の確認ができなかったため夫と面談し、そこから経済的な問題が発覚し介入開始	生活保護決定前に急変し死亡。本人が身元不明のままだったため警察も介入し身元を調査。後に本人が偽名を使っていたことや年齢も詐称していたことが判明。しかし家族も同時に判明したため火葬前に兄弟が本人に会いにきてくれた。葬祭費については生活保護にて対応。	

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-36	福岡	74	男	無職	無保険	無保険↓短期証↓国保証	2010.6.23	肝がん、横行結腸がん、閉塞性イレウス	2011年3月下旬	病死(肝癌)	2010年6月に腹痛で来院。腹水、肝機能障害疑いで後日●●病院入院。肝がんの診断(末期?)・退院後、▲▲診療所へ通院となったが、本人の希望もあり12月に自宅から比較的近い■●病院へ紹介となった。3月下旬■●病院で亡くなった。	相談を実施。駐輪場のアルバイトを前々月まで続けていたが体調悪くいったん辞めた。お金も無く、受診を抑えていたが、がまんできなくなり当診療所へ受診。国保料を払っておらず、来院時には期限切れの国保証を提示。多くの借金(闇金等)もあり年金収入だけでは生活もできないため無低とした。翌日、役所で1万円納めて短期証発行。借金については法律事務所を紹介した。	アルバイト収入と年金があっても借金(闇金等)返済と生活できりぎりであった。若い頃から酒が飲めず悪く、サラ金・闇金にも手を付け周りに迷惑ばかりかかっていたと本人談。体調悪化後もしばらく誰にも相談しなかった。■●病院へ紹介後もしばらく受診しなかった。▲▲診療所や法律事務所の予約日を忘れることもしばしばあった。説明したこともなかなか理解されず、困難を覚えた。■●病院へなかなか受診されない頃、自宅へ3度程訪問に行ったが、もう来ないでくれと体調悪化のせいかと不機嫌な日も続いた様子。最後はずっと間わりを絶っていた兄弟に連れられて3月、■●病院の緩和ケアに入院し、同月下旬に永眠された。弱みに付け込むサラ金・闇金の被害者でもあり、国保(前年度で期限切れ)を持っていても受診もできない医療制度の被害者でもあると思う。人付き合いの苦手そうな方で、周りの人も間わりを絶っていた様な方であった。医療関係者、法律関係者にとってはフォーローが非常に難しい方であったように思う。それでも、初診前々月には仕事を辞める程体調が悪く、来院時には既に癌末期であったことから、おそらくその前から体調は悪かったであろうと思われ、どんな人でも体調が悪ければお金の心配無く受診ができれば、この事例は生まれなかったのではないかと思う。	特に無し。
①-37	福岡	62	男	無職	国保資格書	国保資格書	2011.1.13	クモ膜下出血	2011.1.13	病死(脳出血)	無職で内縁の妻との二人暮らし。子供は3人いたが、あまり行ききしていなかった。内縁の妻がパートで12万円くらいの収入で仕事をして生計を立てていた。国保料の滞納で保険証の交付をされていなかった。	救急車で19時に搬入され、翌日AM2時に死亡。「保険がなく、自費のため、医療費が払えない」と亡くなった患者さんの長男と内縁だった妻から相談を受ける。合せて葬祭をあげることも費用がないという内容で、お亡くなりになった日に相談がある。	ご本人とは会うことがなかったので、遺族から話を聞き、クモ膜下出血だったので、受診遅れかどうか分からないが保険証がなかったため、受診はしていません。無職でいたのも事情があった様子。	生活保護申請中
①-38	福岡	64	男	非正規雇用	無保険	協会加入(↓)↓無保険(国)	2011.7.29	肺癌	2011.11.19	病死(肺癌)	在日韓国人。●●大学中退。結婚後義父の商売を手伝っていたが、義父とソリが合わず離婚し、タクシー運転手となった。10年ほどは正社員だったが、手取額を増やすため保険料を払わなくて済むようにパートになり国保にも加入せず、無保険状態を続けていた。職場の健診で肺の陰影を度々指摘され、受診を勧められていたが、医療費の負担がてきないと思いそのまま受診もせず働いていた。	2011年7月29日、朝から起き上がることもできないほど体がダルく、心配して様子を見に来た職場の上司に「このままでは死んでしまうかもしれない。民医連の病院に行けば医療費の相談にもってくれるのではないかと強く言われ同僚のタクシーに乗って▲▲病院へ行ったが、午前中の受付が終わっており、「明日来てくれ」と言われたため、午後診をしている当院へやってきた。	肺癌が明らかだったため即日入院に。生活保護申請し、受給開始。保護課の連絡により、別れた妻子、兄弟等もかけつけ、15年ぶりの再会となった。子ども(一女二男)たちも献身的によりそい、3ヶ月半の闘病の末亡くなられた。	

全日本民医連 2011年国民健康保険など死亡事例調査報告【①国保短期証・資格証明書・無保険】

事例NO	県連	年齢	性別	職業	保険	保険の推移	初診日	基礎疾患	死亡日	死因	事例	事業所とのかかわり	結果(帰結)	その他(自治体の対応など)
①-39	宮崎	55	男	非正規雇用	無保険	国保↓無保険	1998.6	高血圧	2011.1.13	病死(脳出血)	H17年頃、生計中心者である妻(会社員)が急死。妻の急死後、弁当屋を閉店したとの情報あり。詳しいことは隠そうするため聞くことができなかったが、日雇いで収入を得ている様子だった。	H22年9月、高校3年生の子どもの受診に付き添いで来院。子どもは短期保険証で、本人は無保険だった。本人の受診を促したが、無保険を理由に拒否。無低や生保など提案したが、あまり理解を示さず。子どもの診療費3030円のうち1000円しか支払うことができなかった。内服薬に関しても「もらわないといけないのか」と質問あり。必要性を説明したが、院外薬局に確認したところ、取りに来なかった、とのことだった。	12月、残金について支払いがなかったため、支払い通知書を送付。H23年1月5日、処置室近くのテーブルにうつ伏せに倒れているところを発見(昼休憩時間帯で職員が手薄になっていた)。近くの脳神経外科へ救急搬送。脳幹部を含めた広範囲な脳出血との診断で、13日に死亡。	勤務先に連絡し、体調について確認したが、特に訴えはなかった。当日は13時まで勤務。給料日だったため、支払いに来たのだろうか、と推測(クリニックでの発見は13:30)。車の中は督促状が散乱していた。
①-40	沖縄	71	男	無職	国保短期保険証		2011.7.8	悪性リンパ腫疑い	2011.8.5	病死(悪性リンパ腫疑い)	1人暮らし、7/8役所職員(包括支援センター)訪問。救急車要請。身よりがないため職員が短期保険証持参、資産があるため生保申請難のコメント。	2011年7月8日救急搬送初診入院。8月5日死亡退院。身よりがないため、保護課より要請受け葬祭援助申請を院長名で実施。	7/19、福祉相談室に電話相談。急迫保護依頼文書FAX送信、7月19日～生保決定。	
①-41	沖縄	59	男	無職	無保険		2011.1.17	蘇生後低酸素脳症	2011.3.11	病死(低酸素脳症)	登録住所なく、友人宅に居候、身元確認難。担当SWより急迫保護連絡実施。	2011年1月17日(初診)、友人宅から救急搬送となり、心肺停止状態から蘇生。3/11退院まで入院。	生保決定。死亡退院時は家族(兄弟)来院あり	
①-42	沖縄	60	男	自営業	国保短期保険証		2011.9.12	胃癌末期	2011.9.30	病死(胃癌)	●●病院にて2009年胃癌手術を受ける。その後退院職場復帰する。2011年6月癌性腹膜炎による腸閉塞の手術を受ける。2011年8月鎖骨下カテーテル留置する。胃癌末期で疼痛は強いが医療費の支払いが出来ないので8月24日退院。本人は受診せず、奥さんが点滴を家でするので点滴液下さいと●●病院受診した為、●●病院より相談を受け在宅ターミナル目的で訪問診療開始	9月12日初往診日に患者本人から看護師にお金がないので1万円を超えたら往診にこなくていいと訴えられた(1万円しか使えない)	県外に資産(広島)があるので生保申請は無理と言われている。国保44条申請の為に診断書提出(途命1ヶ月)。市担当者より国保44条適用出来るので早めに申請をするようすすめられる。9月16日疼痛が強くなり、又国保44条で医療費(入院費)の負担が心配ない為、入院拒否することなく入院となる。	窓口の職員の対応が親切だった